

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 12月 18日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|------------|
| 事業所番号 | 2090700010 | | |
| 法人名 | 株式会社 ケアネット | | |
| 事業所名 | ケアネットグループホームすざか | | |
| 所在地 | 長野県須坂市大字小山字蒔田2518-1 (電話) 026-251-2811 | | |
| 評価機関名 | コスモプランニング株式会社 | | |
| 所在地 | 長野市松岡1丁目35番5号 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年12月18日 | 評価確定日 | 平成20年1月22日 |

【情報提供票より】 (平成19年12月7日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|--------------------|------|
| 開設年月日 | 平成18年6月2日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 8 人 | 常勤 8人, 非常勤 0, 常勤換算 | 7.5人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--------|--------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り | |
| | 1 階建ての | ~ 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|-------------|
| 家賃 (平均月額) | 51,000 円 | その他の経費(月額) | 光熱水費1日700 円 |
| 敷 金 | 有 (円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 450 円 |
| | 夕食 | 450 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 1,100 円 |

(4) 利用者の概要 (平成19年12月7日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 2 名 | 女性 7 名 |
| 要介護 1 | 2 | 要介護 2 | 4 |
| 要介護 3 | 1 | 要介護 4 | 2 |
| 要介護 5 | 0 | 要支援 2 | 0 |
| 年齢 | 平均 78.7 歳 | 最低 70 歳 | 最高 88 歳 |

(5) 協力医療機関

| | | |
|---------|------------|-------|
| 協力医療機関名 | ・西沢内科胃腸科医院 | ・遠藤歯科 |
|---------|------------|-------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

異種企業が介護の事業への参入したホームである。ホームは本部と関連事業所が併設された建物にあり、道路をはさんで地域名産のりんごや桃の畑が広がっている。平成18年6月開設の新しいホームであるが、入居者は明るく、落ち着いた、楽しい生活を送っている。管理者はじめ職員は他の施設経験はあるが、グループホームの経験はほとんどなく手探り状態であった。しかし、入居者へのケアは心が通っている。全体的に見ると、まだ手付かずの部分や入居者への介護の課題が沢山ある。課題解決にむけて一歩ずつ前進することで、ホームは今以上に入居者にとって住みやすい場所となるものと思われる。今後に期待したい。

【重点項目への取組状況】

| | | |
|------|---|--|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 今日 今回が初めての評価であった。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 初めての経験で評価項目も難しかったようである。管理者は目先のことにとらわれず、現場のことを考える必要があることをあらためて感じた。現場職員は自己評価を難しく感じ、また、もっと勉強しなくてはという思いになった。 |
| | ② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 運営推進委員よりボランティアの受け入れの提案をしていただき、実際受け入れに繋がった。今後は回数を増やし、色々な場面でボランティアの協力をお願いしていきたいという意向である。 |
| 重点項目 | ③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族会があり活動も行われている。職員の手による「すざか便り」が発行され、入居者の担当職員が入居者の日常生活を記した手紙を作成し家族のもとへ送っている。離れて暮らす家族には何よりの知らせである。ホームは本部や他サービス事業所と併設されているため、外部者からは本部等職員もホームの職員と思われる場合もある。ホーム担当でない職員もホームや認知症への理解を深めていただき接していただくよう望みたい。 |
| 重点項目 | ④ | 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 開設以来地域との交流は行われてきている。管理者・職員は行事だけのつながりでなく、行事のつながりをもとにして地域の方々との交流を更に深めていきたいと考えている。中学生の職場体験なども受け入れているが、それ以後のつながりをどのようにしていくか今後の課題と思われる。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人の理念をホームの理念としている。ホーム内にも理念が掲げられている。 | ○ | 法人の理念は、併設の事業でも掲げている。この機会に、グループホームとしての地域密着型理念を管理者・職員で話し合い、法人の理念の他に、独自のものをつくり上げられることを望みたい。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員は法人の理念を理解し、支援に当たっている。新規採用時には研修で法人の理念の説明がされている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の文化祭に参加し、ホーム入居者の作品も出品した。ホームで行われた「お花見の会」・「夏祭り」・「やしょうま作り」など近隣の方に声掛けして参加していただいている。今後はイベントだけのつながりでなく、深く地域とかかわりを持ちたいという意向がある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 初めての評価で、管理者から「現場に目を向けて考えていかなければならないことが分かった」と伺った。目先のこと（入居者の毎日の生活）を優先してしまっていると感じられており、安心して現場職員が仕事ができるように考えていきたいと語られた。自己評価は職員も参加し、話し合いの場を設け検討した。 | | |

ケアネットグループホームすぎか

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行事の報告を主として行ってきたが、今後は議題を設けて、提案・質問等にも積極的に対応していく方向である。運営推進委員の方よりボランティアの受け入れの提案もしていただいている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市との関係は、現在、入退居の連絡ぐらいである。ホーム自身にまだゆとりがなく、毎日の生活の基盤をつくることを優先している。 | ○ | 市よりの「相談員」の受け入れを市役所窓口で打診していただきたい。入居者の小さな相談ごとでも聞いてもらえるという安心感につなげて欲しい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | ホームの「すぎかだより」が2ヶ月に一回の割合で発行されている。行事の予定と実際に行った時のスナップ写真を載せて家族へ送っている。担当職員の手書きの手紙もすぎか便りの発行と異なる月に家族のもとへ送付している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に「意見箱」が設置されている。家族よりの会話の中から要望・苦情等聞いたときは、定例会で職員に伝達し改善を図っている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 事業所内での異動は原則行わない。入居者との馴染みの関係を大切に支援している。 | | |

ケアネットグループホームすざか

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|----------------------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員は管理者より開催予定等の情報を知らされ、研修に参加している。認知症ケアなどの研修に参加し、内容を定例会で発表・報告している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム間のネットワークに参加している。2ヶ月に一回の割合で情報交換の場を設けている。お互いの悩みややり方など相談や情報を交換したりしている。近隣のグループホームとの交流もある。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 併設のデイサービス利用者やショートステイ利用者がグループホームの入居者となることもある。初めての方にはホームに見学に来ていただき、入居者とお茶を飲みながら雰囲気を体験していただいている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 人生の先輩として、料理の作り方等、毎日の生活で学ぶことが沢山ある。手芸など細かい仕事も教えていただいている。 | | |

ケアネットグループホームすざか

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 現在、入居者の方々は会話も出来、希望などを聞くことが可能な状態である。毎日の生活の中で入居者と職員の意思の疎通が十分出来ている。 | ○ | 各職員が入居者の履歴を共有できるように、生活暦の聞き取り調査をもう少し詳しくしていただき、記録を一つにまとめる工夫をしたらどうであろうか。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 入居者ごとに担当職員が決まっている。日頃から入居者の気持ち・言動をもとに、入居者の希望に沿うようなプランを作成するように心がけている。家族へも説明し、了解を得ている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 基本的には6ヶ月でプランの見直しを行っている。心身の状況の変化があるときは随時行っている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | かかりつけ医の受診は家族付き添いでお願いしているが、都合のつかない家族からの依頼があれば職員が同行している。併設の事業所での行事に参加することもある。火・金曜日にリハビリの指導を出張していただき実施している。 | | |

ケアネットグループホームすざか

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者の健康状態をよく把握しているという理由から、かかりつけ医の継続を勧めている。入居以前よりのかかりつけ医の変更をした方は、今までない。また、かかりつけの医師が往診もしてくれる場合もある。緊急の場合、協力医にお願いすることもある。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 運営規定第7条④に記載してあるが、現在は毎日の生活の安定に力を入れている状態であり考えていない。 | ○ | 今後は法人としての方針、ホームとしての方針をそれぞれの立場から考えていただきたい。ホーム職員の勉強会で重度化・終末期の対応などについて事前学習をしておくことも必要ではないかと思われる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 秘密保持については重要事項でも説明している。毎日の生活でも入居者同士の関係を保つために食事の席などを変えたり、お人形を孫と思い込んでいる方から職員が預かり、背負って仕事をするなど、各入居者に合わせ丁寧な支援をしている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の流れはおおよそ出来ているが、お天気・新聞記事などを読んで出かけることもある。毎日のおやつも、当日の当番が入居者の希望を聞いて出している。 | | |

ケアネットグループホームすざか

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりの出来ることで参加している。食事の前には必ず「嚥下体操」を職員の指導で全員が行っている。手洗いとうがいは必ず行われている。季節の漬物を楽しみながら、温かいものは温かく、目と舌で食事を楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 大きなお風呂に複数の入居者で入浴を楽しんでいる。車椅子の方には職員が2人で介助して入浴していただいている。お風呂が好きな方は近隣の温泉施設に出向き、温泉を堪能している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 希望外出を行っている。それぞれの希望する場所（カラオケ・温泉など）に数人で訪れ、帰りには食事を楽しむなど生活に変化を持たせている。畑仕事、手芸、折り紙など入居者ごとに時間を過ごしている。季節の漬物作りは入居者と職員と一緒にしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 少人数で近所のグランドまで散歩をしている。リハビリということだけを考えるとグランドの中で充分と思うが、今後は地域の方々とふれあい出来る場所まで散歩のコースを変えていきたいとの方向で進んでいる。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | ホームよりのサービス概要にも施錠はしないことを明記している。鍵をかける事の弊害を職員は良く理解しており、鍵はかけられていない。職員の見守りを重視し、入居者に事故のないように配慮している。 | | |

ケアネットグループホームすざか

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に2回防災訓練を実施している。職員と入居者も参加して訓練を行っている。近隣の住民にも協力をお願いしている。地元地区との防災協定が結ばれている。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員が分担して献立を作成している。出来上がった献立を併設事業所の栄養士にチェックしていただいている。正月には職員・入居者でおせち料理を一緒につくり、新年を祝っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | キッチン、リビング、事務所が1フロアで見通しがきく造りになっている。食事が終わると明かりを1段階落とすなどの工夫もされている。季節の花が置かれ、飾り付けが整然とされている。スナップ写真もロビーに張られていて、ほほえましく感じられた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、洗面所・トイレが設置されている。ベット、ミニタンス、薄型テレビが備え付けられている。鉢植えの花が飾っていたり、自分で作ったきり絵が張られていたり、家庭より持ち込まれたものは比較的少ないように思われるが、各入居者に合わせ生活しやすい居室作りがされていた。 | | |

※  は、重点項目。